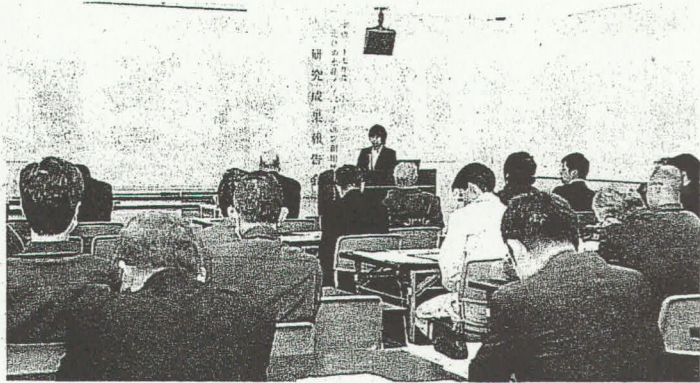


愛媛大南予水産研究センターの准教授ら5人が研究成果を披露した報告会。9日午後、宇和島市築地町2丁目



# スマ高水温期高成長

## 愛媛大南水研が成果報告

宇和島

愛媛大などの研究成果を漁業現場と共有し宇和海の

水産業活性化を目指す「えひめ水産イノベーション創出地域研究成果報告会」が9日、宇和島市築地町2丁

目の県漁連研修センターであった。同大南予水産研究センター(南水研、愛南町)の准教授ら5人が、文部科学省の補助を受け取り組む赤潮対策やマグロ類の完全養殖を目指した研究などに

ついて報告した。

えひめ水産イノベーション創出推進協議会が主催。漁業や金融機関の関係者ら約80人が参加した。

養殖魚スマの研究を手掛ける斎藤大樹准教授は「マグロ類の完全養殖を目指した基盤研究」と題し発表。海面いけすでの天然種苗の成長特性について「夏の高水温期に高い成長を示し、水温の低い時期には成長が滞っ

た」とデータを基に説明した。天然種苗などよりも早い時期の産卵によって、出荷までの期間、高成長期を長く過ぐす早期人工種苗を生産した2015年度の成果を紹介。実証試験に触れ「天然種苗と比べ、驚異的な成長を見せた」と報告した。

主催した協議会の調整機関、えひめ産業振興財団の亀岡洋一えひめ水産イノベーション創出地域プロジェクトディレクターは「研究成果の実用化や事業化により、宇和海地域の潜在能力を掘り起こし活性化につなげた」と話した。(青儀桃子)